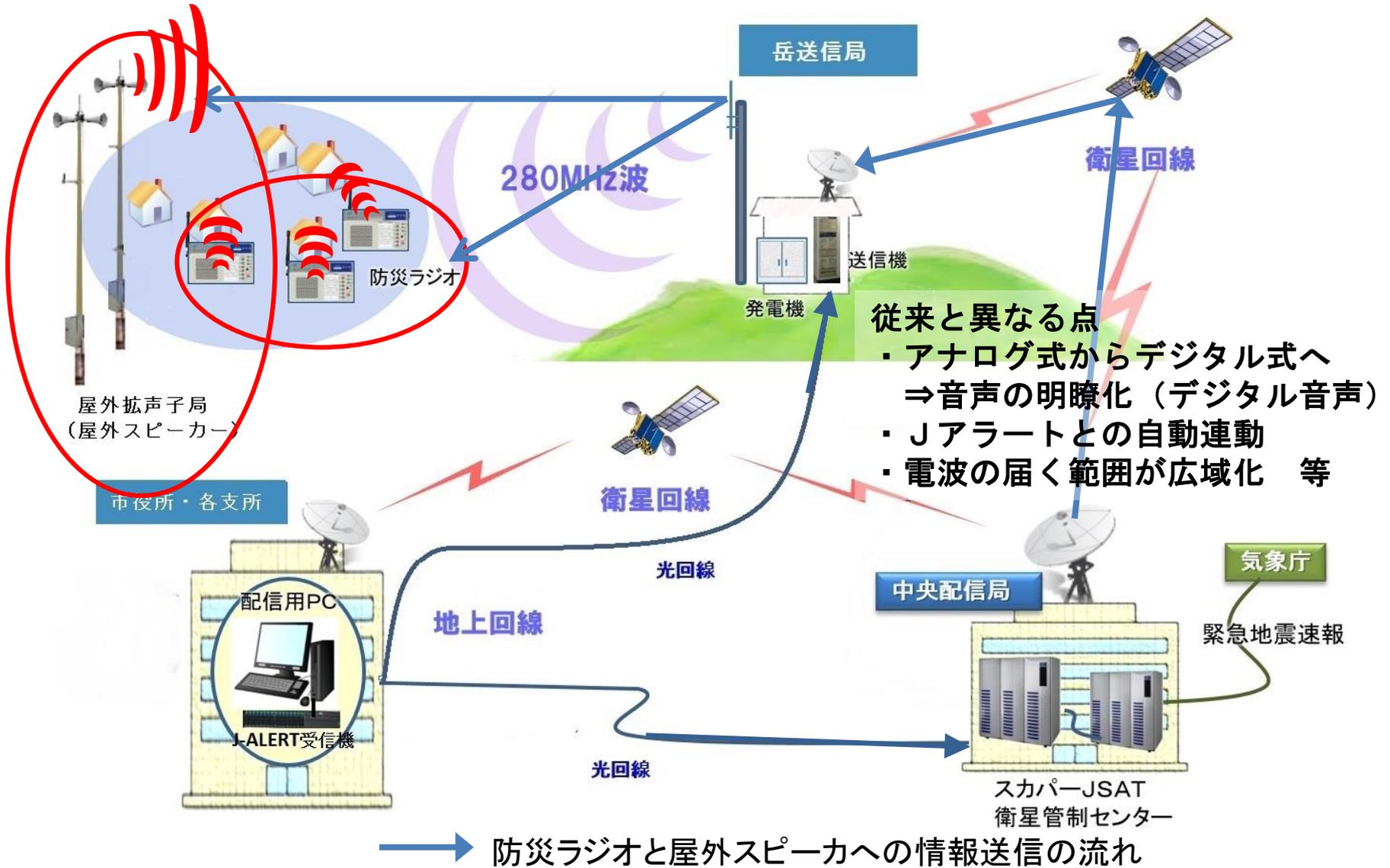


(1) 280MHz 防災行政情報配信システムの概要



(1) 280MHz 防災行政情報配信システムの概要

① 防災ラジオと屋外スピーカーの役割

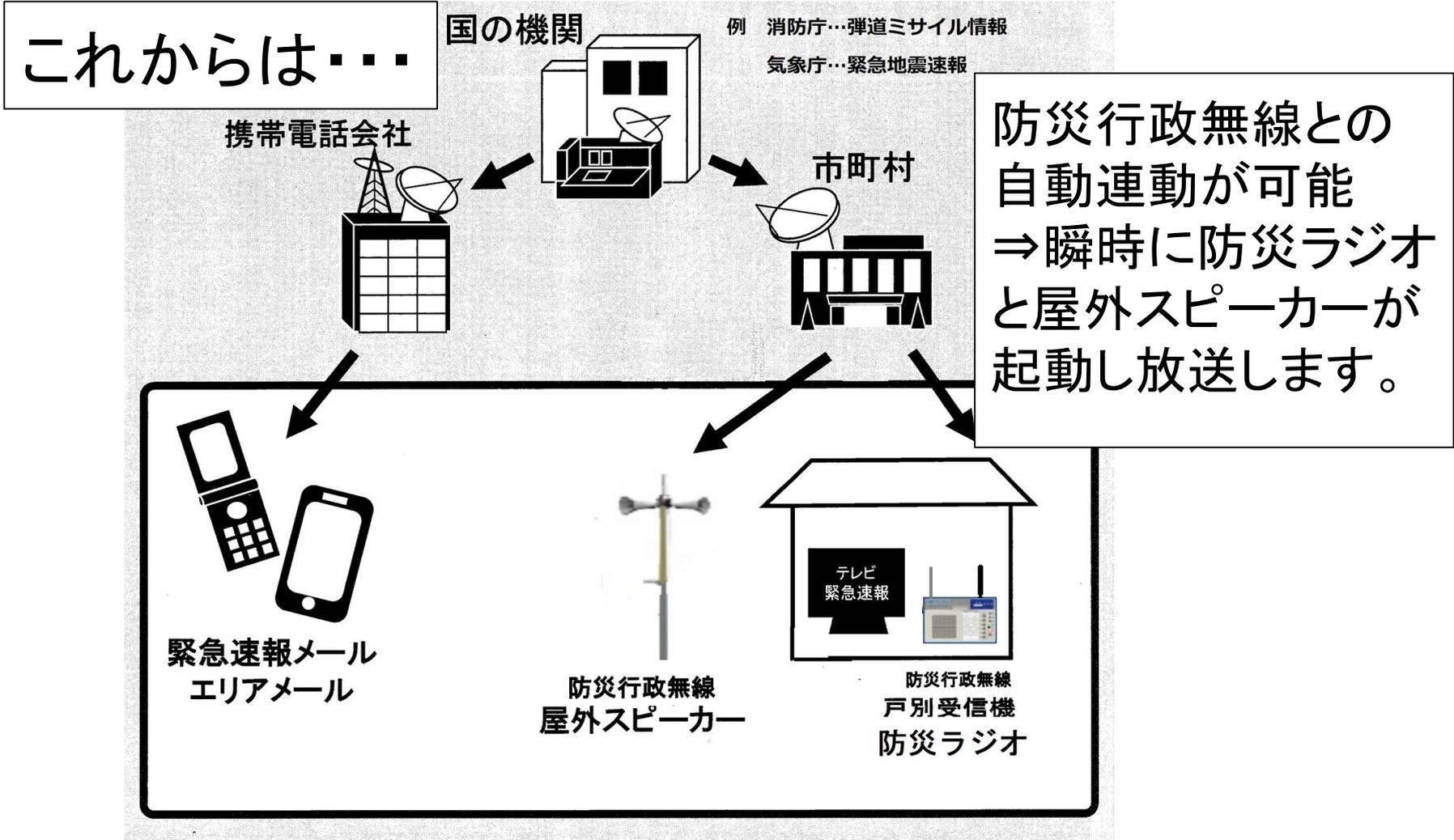
防災ラジオ・・・住宅等、建物の中で使用
屋外スピーカー・・・屋外にいる方へ向けて放送
⇒地域防災力の向上と、市からの様々な情報発信のツールとして利用。
放送内容は一部地域を除き基本的に同じ。お互いを補完する役割があります。



- 【放送する情報の例】 ※基本的に防災ラジオと同じ内容です
- ・防災情報 「大雨警報が発表されました」
「〇〇住民センターに避難所を開設しました」
 - ・行政情報・各種行事情報
「明日、〇〇の大会が□□広場で開催されます」
 - ・定時放送 二本松市民の歌(オルゴール版)など

(1) 280MHz 防災行政情報配信システムの概要

② Jアラートとの連動について



(2) 屋外スピーカーについて

① 放送する内容

【防災情報】

現在予定している放送内容



- ・ 火災発生・鎮火周知（※消防本部より放送）
- ・ 気象情報（警報発令、河川氾濫水位情報等）
- ・ 災害情報（避難準備情報、避難勧告、避難指示）
（土砂災害による大規模通行止め、等）
- ・ 国民の保護に関する情報（弾道ミサイル関連等）

※あくまで現在予定している内容であり、運用後に適宜、放送内容を追加・削除する場合があります。

(2) 屋外スピーカーについて

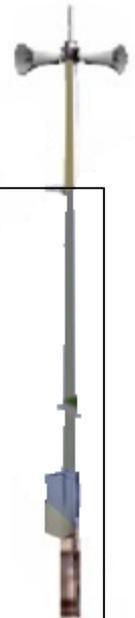
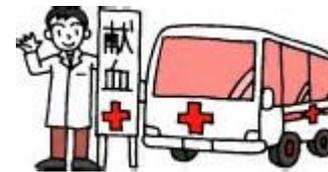
① 放送する内容

【行政情報】※観光地等では放送しません

現在予定している放送内容

- ・ 火災予防運動、交通安全運動啓発
- ・ 献血啓発
- ・ 選挙啓発
- ・ 確定申告相談実施周知
- ・ 特設人権相談所・行政相談所開設啓発
- ・ 狂犬病予防接種啓発
- ・ 社会を明るくする運動啓発
- ・ なりすまし詐欺啓発
- ・ 振込詐欺啓発 etc...

※あくまで現在予定している内容であり、運用後に適宜、放送内容を追加・削除する場合があります。



(2) 屋外スピーカーについて

① 放送する内容

【各種行事情報】※観光地等では放送しません

現在予定している放送内容

- ・ 消防春季・秋季検閲、出初式開催周知
- ・ 市主催の講演会等、市主催の行事の周知



※あくまで現在予定している内容であり、運用後に適宜、放送内容を追加・削除する場合があります。

(2) 屋外スピーカーについて

① 放送する内容

【定時放送】※地域により異なります
現在予定している放送内容の例



・ 朝 「二本松市民の歌」



・ 昼 「ウエストミンスターの鐘」
(学校のチャイム音)

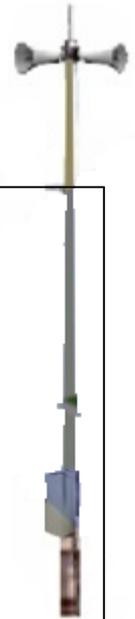


・ 夕方 「夕焼け小焼け」



※定時放送は動作確認の役割もあります。

※あくまで現在予定している内容であり、運用後に
適宜、放送内容を修正する場合があります。



(2) 屋外スピーカーについて

②機能について

音達範囲・・・半径約300m～500m程度

ただし、地形・天候・周辺の騒音環境により、その範囲は狭まります。

⇒豪雨の場合などはほぼ聞こえなくなります。

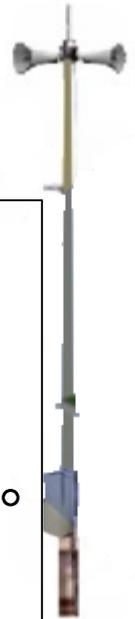
⇒高気密住宅の中ではほぼ聞こえません。

音の強さ・・・屋外スピーカーの直近・真下ではかなりの音量となります。

⇒80dB前後・・・(例) 電車の車内、

ピアノの正面1m

音の広がり・・・スピーカーの向きから60°に広がり、水平距離で2倍離れれば、音量は1/4程度に下がります。



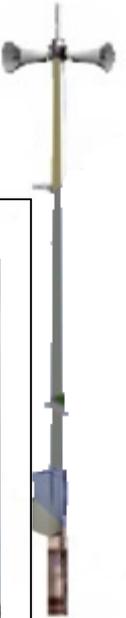
(2) 屋外スピーカーについて

②機能について

- 高さ 約15m（一部13m）
- 屋外スピーカーは地形を考慮してその数と向きを検討しています。山に対しては反響（こだま）が発生するため、設置が難しいので山にはなるべく直接向けません。
- 近接している場合は音が干渉する場合があります。
- 停電時には内蔵バッテリーで約72時間使用可能です。
- 雷対策として避雷針を備える。
- 音声はデジタル音声（文字情報を音声化）



（イメージ）



(2) 屋外スピーカーについて

③ 整備方針について

【考慮すべき点】

- ・ 狭隘な山間部への配置・音達は難しい（反響問題）
- ・ 乱立させても音が干渉しあい、ただの雑音になる（騒音問題を考慮する必要がある）
- ・ 屋外スピーカーと防災ラジオは補完し合う役割

上記をふまえ・・・



【整備方針】

- ・ 住宅密集地と、災害リスクの高い地域をなるべくカバーするように配置。ただし、過度の配置による音の干渉および山間部での反響問題を極力抑える配置としています。
- ・ 新規に設置する箇所は公共施設の敷地など、なるべく市有地を選定しています。
- ・ 屋外スピーカーによる全地域のカバーは不可能なため、引き続き防災ラジオの新規申込みと配付を継続します。

